

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7  
災害に強い県土づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 砂防課長 若槻和浩 電話番号 0852-22-5205

事務事業の名称	砂防事業	
目的	(1) 対象	土石流危険渓流の周辺及び下流域に居住する住民並びに住家等
	(2) 意図	土石流災害に対し、県民が安全に暮らせる環境を整備する
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土石流危険渓流の土石流災害防止のため、交付金事業及び県単砂防事業により、砂防えん堤、溪流保全工等の砂防設備の整備を行う。</li> <li>・砂防設備の機能回復及び機能維持を図るため、県単砂防修繕（砂防）事業、ダムリフレッシュ事業等により、施設の修繕、堆積土砂の撤去等を行う。</li> <li>・当年度発生した土石流災害により緊急に対処が必要な箇所の保全のため、災害関連緊急砂防事業、砂防ダム等災害対応緊急事業等を実施する。</li> <li>・風水害等により被災した砂防設備を原形に復旧し、機能回復するため、補助・県単の公共土木施設災害復旧事業を実施する。</li> <li>・県内各市町村が行う砂防指定地内固定資産税減免資料の作成。提供。</li> </ul>	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	土石流危険渓流に対し、土石流災害防止対策を講じた箇所の保全される人口の累計	目標値		18,252.0	18,375.0	18,570.0	18,612.0	人
	式・定義	前年度までの保全人口数+当該年度概成箇所の保全人口数	取組目標値						
			実績値	18,150.0	18,237.0	18,483.0			
			達成率	-	100.0	100.6	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	2,295,215	3,283,776
うち一般財源 (千円)	72,792	118,536

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・県内の土石流危険渓流3,041渓流のうち、平成29年度末までに整備を完了した渓流は381渓流と未だ低い水準（整備率12.5%）にあり、多くの県民が土砂災害を被る危険な状況にさらされている。  
 ・事業実施にあたっては、地域の防災拠点や避難所、病院や老人福祉施設等の要配慮者利用施設を保全する箇所の整備を重点的に進めている。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

・土石流災害から県民の生命・財産を守るため、県内の土石流危険渓流3,041渓流のうち、平成29年度に4渓流の整備を完了し、平成29年度末時点で整備を完了した渓流は381渓流となった。  
 ・また、事業実施にあたっては、地域の防災拠点や避難所、病院や老人福祉施設等の要配慮者利用施設を保全する箇所の整備を重点的に進めている。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

・県内の土石流危険渓流3,041渓流のうち、平成29年度末までに整備を完了した渓流は381渓流と未だ低い水準（整備率12.5%）にあり、多くの県民が土砂災害を被る危険な状況にさらされている。

### ②困っている状況が発生している「原因」

・現状の限られた予算の中では、整備完了箇所の大幅な増加は望めない。

### ③原因を解消するための「課題」

・未整備箇所は依然として多く残されていることから、更に事業予算を確保する必要がある。  
 ・優先度の高い箇所の整備を重点的に推進する必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・事業予算を確保するとともに、地域の防災拠点、避難所、要配慮者利用施設等の事業効果の高い箇所の整備を引き続き重点的に推進する。  
 ・ハード対策と併せて、市町村による警戒避難体制の強化支援、土砂災害特別警戒区域の指定による危険住宅の増加抑制、出前講座等による住民の防災意識の向上など、ソフト対策の充実を図り、県民、市町村と一体となった総合的な土砂災害対策を推進する。